

天文台教員指導大学院生

- 博士課程

D3: 西田 圭佑

D2: 川道 俊見、西塚 直人、松本 琢磨、Patrick Antolin

D1: 大辻 賢一、滝澤 寛、Andrew Hillier

- 修士課程

M2: 川手 朋子、栗山 純一、副島 裕一、松本 仁、渡邊 皓子

M1: 阿南 徹、橋本 祐樹

4 主要な教育研究設備

4.1 主要教育研究設備

飛騨天文台

60 cm 反射望遠鏡、65 cm 屈折望遠鏡、60 cm ドームレス太陽望遠鏡 (DST)、
太陽フレア監視望遠鏡 (FMT)、太陽磁場活動望遠鏡 (SMART)

花山天文台

45 cm 屈折望遠鏡、70 cm シーロスタット太陽分光望遠鏡、
花山天体画像解析システム、18 cm 屈折太陽 H α 望遠鏡 (ザートリウス望遠鏡)

4.2 平成 20 年度の主な改修改良事項

(1) 飛騨天文台 DST 棟 暖房用電気ボイラ関係更新

DST 棟建設当時から使用されていた軟水装置が老朽化のため能力が失われたため、軟水装置を更新した。電気ボイラ用制御盤はヒーター制御をマグネトリレーによる ON-OFF 制御であった。そのため、チャタリングも多く電力消費量も多かったため、温度調節器と電力調整器を用いることにより、PID による無接点制御を行えるようになった。これにより、ヒーターへの出力電力も必要な分のみで行えることから、無駄な電力消費を抑えることができるようになった。

(仲谷)

(2) 飛騨天文台 計算機ネットワーク整備

飛騨天文台では、7. 主な営繕工事で報告のある通り、本館 (研究棟) の大規模な耐震改修工事を行った。これに合わせて、学術情報メディアセンター及び理学部情報管理担当の方のご協力を仰ぎながら、飛騨天文台内のネットワークの張り替えを行った。このことで、飛騨天文台内の SMART 観測室から DST 棟までをつなぐ基幹ネットワークは、全てギガビットイーサーになった。本館内の全ての部屋や、DST 棟内の多くの研究室でもギガビットイーサーで接続できるようになった。

これまで飛騨天文台では、KUINS-II の配下にあるゲートウェイ計算機 fw の下に、台内プライベートネットワークを持つ形であった。しかし、飛騨天文台の耐震改修工事とネッ